

私がオーガニックコットンを日本に持ってきてからはや二十二年になりました。原綿をテキサスから輸入し、糸作りから生地、製品作りまでを国内で行うことにこだわっています。日本の市場に出回っている繊維製品の90%が輸入品といわれる中、日本での物づくりは年々難しくなっています。加工所が廃業したり、倒産したり、繊維産業は衰退の一途をたどっています。

ペリーが日本に上陸してから米国の安い綿が日本に入ってくるようになりました。明治時代に綿の関税が撤廃されてから

アバンティ
代表取締役社長
渡辺智恵子さん



繊維産業の再興目指す

は、輸入量も格段に増え、それまでは全国各地で栽培されていた原綿は作られなくなりました。代わって繊維産業が経済を支えるようになりまし

しかし、平成になると中国で繊維産業が大きく発展しました。安い賃金と労働力と日本から流出した技術力が融合し、世界の工場になっていきま

日本はその間にお蚕を育てることや羊を飼うことをやめました。麻も栽培されなくなりました。繊維製品の原料も製品も国内では作られなくなっ

たのです。自給率は限りなくゼロです。食料の自給率が40%を切って衝撃的ですが、繊維のことは知られていません。日本で何とか少しでも自給を再開したいと、私たちは二〇〇〇年からオーガニックコットンの栽培を始めました。

福島は、風評被害で多くの農家が米や野菜を植えることをやめてしまいました。一方、いわきでは綿を植えることに挑戦する人たちが現れました

写真。和綿の種を一緒に市内十五力所一・五鈴にまき、十月から収穫が始まりました。これから福島をオーガニックコットンの国内最大の産地に

し、そして糸作りも生地作りもこの福島でやれるようにし、繊維産業を再構築していきたいと思

東北復興日記

17



この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。

得て、掲載しています。